

第7回「砂礫の最小・最大密度試験方法基準化委員会」議事録

日時:平成17年7月25日(月)10:00~12:30

場所:社団法人 地盤工学会 3F会議室

出席:國生委員長, 畑中副委員長, 原幹事, 小林幹事, 工藤委員, 桑島委員(新任), 後藤委員, 酒井委員, 佐藤(弘)委員, 下村委員, ハザリカ委員(新任), 山田委員

欠席:稲垣委員, 向後委員, 木幡委員, 関根委員, 田邊委員, 村山委員

議事:

1. 新任委員の紹介
2. 親委員会への上申結果報告
3. 会告文案の審議
4. 基準案, 同解説, データシート案の討議
5. その他
6. 次回について

議事内容:

1. 新任委員の紹介

【資料 05-2-2】砂礫の最小・最大密度試験方法基準化委員会 委員名簿(2005.7 修正版)

桑島委員(新任)

ハザリカ委員(新任)

委員の交代については, 現在基準部会にて審議中。

2. 親委員会への上申結果報告

【資料 05-2-3】2005/6/20 基準部会での審議内容について

【資料 05-2-4】2005/6/20 基準部会および2005/6/24 親委員会での指摘事項と対応案

- ・試験の特徴を, 基準案の概要の冒頭でアピールしたほうがいいとの指摘があった。
- ・全体的に「手抜き作業」の印象がある。
- ・経緯の書き出しは表現がおかしい。

3. 会告文案の審議

【資料 05-2-6】「礫の最小密度・最大密度試験」公示文案 (基準部会提出版)

【資料 05-2-7】「礫の最小密度・最大密度試験」公示文案 (修正案)

No	該当部分	指摘事項	対応案	対応
1	2. 基準案作成の経緯	「従来、主に砂を対象としてきた液状化...示されている。」 ・表現がいささかおかしい、もしくは カたい。言いたいことはわかるが、 もっと平滑な文章で表現できないか。	・おかしくないのですそのまま ・1段目を削除する ・(木幡先生の修正案)	左記を参考に幹事団にて修正案を作成し、次回WGにて討議する。
2	2. 基準案作成の経緯	「このような背景の下、平成13年度から「砂礫の最小・最大密度試験方法基準化委員会」(委員長：國生剛治中央大学教授)を発足させ...」 ・以下同様に委員長名が記述されているが、これは必要か。必要としたとき、「基準部」だけがそのまま基準部長名が記載されていない。	・括弧書き部分の委員長名を削除	・括弧書き部分の委員長名を削除
3	4. 基準案の概要	・もう少し内容、特色をPRすべき。 例えば、粒径によって2種類のモールドを用意したことなど。	・なぜASTMの方法を採用しなかったかを記述 ・モールドサイズ2種類の理由を記述	左記を参考に幹事団にて修正案を作成し、次回WGにて討議する。
4	全体	・委員会の任期には余裕があるのだから、もう少ししっかり審議してから上申すること。	資料05-2-5参照	

4. 基準案、同解説、データシート案の討議

【資料05-2-8】砂礫の最小密度・最大密度試験 基準(案)

【資料05-2-9】砂礫の最小密度・最大密度試験 解説(案)

【資料05-2-10】砂礫の最小密度・最大密度試験 データシート(案)

【資料05-2-11】データシート作成様式

(1) 基準(案)について

- ・(3)データシート参照

(2) 解説(案)について

- ・試験器具の記述順序を変更.
- ・試料の準備・繰返し使用について重複部分を削除.
- ・試験方法の一部修正.
- ・試験方法の一部修正.
- ・図2.1.24を一部修正.
- ・相対密度の精度の文章を一部修正.

(討議)

- ・スケール→鋼直尺 . すでに基準に載っているカタカナ英語以外のカタカナ英語は日本語にする .
- ・パイプレーターの重量と接地面積の部分を一部修正 .
- ・図の軸は英語・日本語が混在しているが , 日本語に統一すべきである .
- ・図の軸の向きを統一させる .
- ・図 2.1.22 を一部修正 (動的大型の凡例を削除) .
- ・表 2.1.2 を一部修正 (試料 4 ~ 6 は図示してないので削除) . 図-2.1.5 の粒度分布の説明を文章に加える .
- ・相対密度の精度維持は砂に比べ , 礫の方が厳しいことを追記してはどうか .

(3) データシート (案) について

No	該当部分	指摘事項	対応案	対応
1	全体	全体的によくわからない。実務ではデータシートのみ見る場合も多いので、全体的に試験方法がわかるように修正すること。	別資料参照	
2	全体	データシートの記入欄が多すぎるのではないかと。データシート作成様式に準拠しているか。	データシート作成様式に基づき修正必要。 文字サイズ等、詳細の修正は未だであるが、現状シートの許容範囲との差を調べた結果、現状の配置状態を勘案すると、単純に幅を調整することで対応ができる。	・記入項目は基本的な変更を行わない
3	最小・最小密度 (測定用紙)	基準では原則として試料の繰返し試料は認めていないので、記入例も最小・最大密度試験結果とも繰返し使用しないフレッシュな材料を記載すべき。	絶対に繰返しを許さないわけではないので、これでもよいと思われる。(吹き出し説明に、出来るだけフレッシュ材料を対象にすることを付記する)	・指摘に従って修正する
4	最小・最小密度 (測定用紙) 特記事項 3)	豊浦砂の記入例は不要。	委員会としては、砂による検証を勧めているため、削除する要はないと思われる。	・基準案とともに検討
5	最小・最小密度 (測定用紙) 試料の繰返し使用回数記入欄	試料の繰返し使用回数の記入欄の意味がわかりにくい。	吹き出し説明を追加する。 「岩級区分が H クラスなど明らかに破碎の影響がないと判断できる場合には、資料の繰返し使用を可とするが、その繰返し回数を記録する」	・吹き出しで対応
6	最小・最小密度 (測定用紙) 特記事項 3)	「最大密度試験の場合に No.1 試験を 1 回として記入する。」意味がわからない。説明不足である。原則としてフレッシュな材料を用いることになっているのではないかと。	修正 「最大密度試験に際して、試料を繰返し使用する場合には、No.1 試験試料を 1 回として記入する」	・修正する

7	最小・最小密度（測定用紙） モールド記入欄	モールドの個数記入欄を複数とすることについて。 No.2 の条件がクリアしていれば問題なし。	No. 2 の対応案のとおり。	・現状どおり
8	最小・最小密度（測定用紙）	平均含水比とは、データシート下部に記載されているすべての含水比の平均値を示しているのか。	注5)として脚注を追記する。 「注5)平均含水比は、試験 No.ごとに1試料を測定して平均値を求める」	・左記で対応
9	最小・最小密度（報告）	粒径加積曲線グラフ右側凡例の意味がわかりにくい。 「No.1 試料： 回」は何を意味するか。 下表最大密度試験結果と上記との対応関係がわかりにくい。	注3)として脚注を追記する。 「注3)最大密度試験に際して、試料を繰返し使用する場合には、No.1試験試料を1回として記入する」 （*これは測定用紙の再記）	・左記で対応

（その他データシート関連）

- ・カラー上端と試料の体積面との距離に「最低17点計測」を追記。
- ・繰返し使用回数は、最小、最大の両方とも記述。
- ・間隙比計算にかかわる数値は必須としない。
- ・試料充填容器→資料充填用容器に修正。

5. その他

(1)今後のスケジュールについて

【資料 05-2-5】委員会工程表（2005.7 修正案）

- ・今年度会期終了は現状では厳しい状況にある。
- ・公示文の会告は、最短で8/24親委員会審議→9月基準部審議→12月「土と基礎」公示（3ヶ月）。

6. 次回について

- ・次回委員会は10/5（水）10:00～JGS会館にて開催予定。
- ・次回解説作成WGは8/12（金）10:00～ JGS会館会議室で開催予定。

以上